No.134
公民館だより
平成20年11月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

与謝地方人権研究大会から

由良地区公民館長　枝川隆亮

八月十九日、野田川わーくぱるに於いて平成二十年度与謝地方人権教育研究会が開催されました。

この大会は与謝地方に在住している学校教育担当者・社会教育に携わる人々が一堂に会し、目的に対して意見交換をする研究大会です。

この会の目的は、

「同和問題をはじめとする様々な人権問題を通して、相互に尊重しあう人権教育の積極的な推進を図る」としています。

では、どうしたら人権を尊重できるのでしょうか。

「一人一人がお互いの個性や価値観の違いを認め合う。」

「生命の尊さ・大切さや自分がかけがえのない存在であると認識すると共に他人もかけがいのない存在であることを理解する。」

「日常生活の中の身近な問題で人権尊重の視点でとらえる。」

などが挙げられます。

また、実社会面では

「青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむためのボランティア活動などの機会を作る。」

「家庭内では、豊かな情操や思いやり、生命を大切にする心、善悪の判断など人間形成の基礎を幼児期からはぐくむ。」

「学校行事に参加するなど学校との連携は重要」などが挙げられます。

以下、参考にしていただくため、掲載をしました。

世界人権宣言

第一条

すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。

人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

（外務省注訳）

君は生まれた時からずっと自由なんだ。

君の家族も友達もそして世界中の君の知らない人やその人の家族も、友達も。同じ人間として同じ心の高さで－平等に－生きて行くんだね。

君は生まれた時から正しい心を持っている。

正しいことと正しくないことを見分ける力をもっているんだ。

みんな仲間だもの心と力を合わせてその宝みがいていこうよ。

第十六条

一、青年の男女は、人種、国籍又は宗教によるいかなる制限も受けることなく、婚姻し、かつ家庭を作る権利を有する。青年の男女は婚姻中、及びその解消に際し、婚姻に関し平等の権利を有する。

二、婚姻は、婚姻の意思を有する両当事者の自由かつ完全な合意によってのみ成立する。

三、家庭は、社会の自然かつ基礎的な集団単位であって、社会及び国の保護を受ける権利を有する。

（外務省注釈）

君が大人になって、ある人をとても好きになったとしよう。

人種や国や身分が違うからって結婚をやめておこうなんて思うかい？

君の周りの人が（やめとめよ）といっても〈好きなものは好きなんだー〉と思うはず。

そう

君がその人を愛していてその人

も愛していて〈結婚しよう〉と誓い合ったならばそれで充分さ。君には好きな人と結婚する権利がある。でも、夫婦になってから〈僕は夫。妻の君は言うことをきけー！〉なんて態度を一度でもすれば人権感覚落第だね。夫と妻はもちろん平等さ。

世の中がどんなにややこしくなっても自分の家自分の家族は大切なよりどころ。体と心の。大切なものだから国やみんなの力で守ってゆかなければ。

エレノア・ルーズベルトさんの言葉

「普遍的人権とは結局、どこから始まるものなのでしょうか。それは身近な小さな場所、それも、あまりにも近くて小さいのでどんな世界地図にも載っていないような場所から始まるのです。

しかし、この小さな場所こそ、一人一人の人間にとって世界なのです。

自分が通う学校、そして自分が働く工場や農場やオフィス。一人ひとりの男女、そして、子どもは、このような場所で差別のない平等な正義、平等な機会、平等な尊厳を求めています。そこで人権が意味を持たなければ、他の場所でもほとんど意味を持ちません。

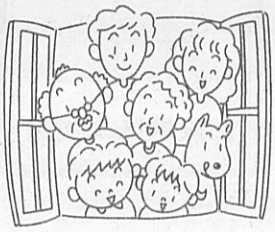
身近なところで人権を擁護する説教的な市民活動がなければ、より広い世界での進歩など到底、期待できないのです。」

（与謝地方人権研究大会資料より）

今回の研究会で「人権とはなにか？」と考えていたことに少し理解ができたように思うので掲載しました。

難しいテーマであり、継続して取組まなければならない事案と考えています。

結論的には、「一番大切なものは人権である」と言えると考えています。



行事報告

主事　磯田充亮

◎五月二十八日（水）
巡回スポーツ教室

生涯スポーツの普及と地区民の健康づくり推進の一環として市体育指導員ののもとで、九月末まで8回開催され、延約三〇〇名の参加がありました。

「ビーチボールバレー」「ユニカール」を体験し、最後の日に「キンボール」を教わりました。どれもルールがやさしく、大人も子供も楽しめるスポーツです。参加者は爽やかな汗を流していました。

◎六月二十二日（日）
由良川てんころレース

第二回大会が開催され、公民館は昨年と同様地域協賛事業として参加し、受付、審判等競技進行全般を担当しました。

当日は小雨模様でしたが、川は無風、波はなく好条件の中、開催しました。参加40チーム、観客二七〇〇人余りと予想を上回る盛況でした。関係各位のご協力ありがとうございました。当大会が「まちおこし」として定着することを願います。

◎七月十三日（日）
四部対抗バレーボール大会

第29回大会を由良自治連合会と共催で開催しました。

昨年と同様のルールで実施、男女98名の参加がありました。

男子は接戦後四部が四年ぶりに優勝、女子は三部が18回連続優勝を成し遂げました。

結果は次のとおりです。

男子の部　女子の部

優　勝　四部　三部

準優勝　二部　四部

（詳細については回覧「公民館がいど」で報告済）

◎七月二十七日（日）
折り紙教室

今回、子供ふれあい活動として、各地で折り紙の普及に活躍されている、折り紙イラストレーターの増倉京子先生をお迎えして由良子供会連絡協議会と共催で開催しました。

小学生、幼稚園児とその母親等14名の参加があり「ジェット機」「こま」を作り飛ばしたり回したりしました。又、ちょっと難しい「ウルトラマン」や「パンダ」に挑戦しました。

◎八月十七日（日）
四部対抗ソフトボール大会

今年はお盆に休めない人が多く居ることで日曜日に開催いたしました。

優勝戦は接戦で同点となり、ジャンケンで決め一部が二年連続優勝を成し遂げました。

結果は次のとおりです。

優　勝　一部　準優勝　三部

（詳細についてはすでに回覧公民館がいどで報告済）

◎八月二十四日（日）
盆おどり大会（地蔵盆）

子供地蔵盆が盛大に行われたあと、約80名の参加者を迎え盆おどり大会を開催しました。今回も子供地蔵盆世話人会、由良踊り保存会等多くの皆様のご協力をいただき開催できました。感謝いたしております。ありがとうございました。

◎九月十四日（日）
ふれあいグランドゴルフ大会

今回は午前と午後の二回開催一チーム6名で8ホールと2回周り計16ホールの合計打数で順位を決めました。

結果は次のとおりです。（敬称略）

午前の部　　午後の部

団体優勝

JA年金友の会　松原寺世話人会

個人優勝

石角正弘　　中西英貴

（詳細についてはすでに「公民館がいど」で報告済）

自信をつけさせたい　パートⅡ

由良小学校長　山本文雄

実りの二学期

「良い経験は、自信と意欲をひき出してくれた。」

今夏日本一への夢を追い楽しかった。

子どもたちに、あのような夢を、目標を掲げ、それに向かって努力を積み重ねていくここちよさ、（厳しさ）を体験、経験させてやりたい。

体験した者は、顔の表情も、生活面も一皮も二皮もむけた。

多くの人達とのつながり、連携を大切に感謝の気持ちを忘れずに取り組んだからだ。

結果はどうであれ、その後の生活や生き方に、変化が出てくれるはずだと思い取り組んだ。

本当に良い経験、体験、厳しい努力は、いいものだ。

二学期、次の日本一めざす、本読み、朗読、計算で自信をつける子どもたちが楽しみだ。

大好きな季節

「ツリーハウス」

お宮さんの境内に、タモの大木がある。五・六メートルの高さのところで四方に幹が分かれていて、その位置にすみ家をつくるのに絶好の場所である。

畳一畳半ぐらいのすみ家ができる。

その上も枝がはり、雨水をしのげるが、屋根もつくった。

問題は、その場所まで登る手段である。

かすがい、五寸くぎ、古い自転車からはずしとったペダルをはしご状に、木の幹に打ちこんでいった。

五寸くぎやかすがいは、五十年近くたって木がまきこんでしまい、姿は見えなくなっているが、自転車のペダルは、

今もタモの木の幹につきささったままついている。
それに、ふみ台にしていた大きな平らな石も　根にまきこまれ、今も残っている。
すみ家が出来上がると、毎日のように、近くの川の石垣にいる青大将をつかまえてきて、木の枝につるして遊んでいた。
五、六匹どころではなく、それ以上つるしていたようだ。
そのせいか、夢の中にヘビの群れが出てきて、フトンの中にも首のまわりにもヘビだらけで、よくうなされた。
動食物は、殺してはいけないですね。遠い昔の想い出だ。
本当に良い経験、体験、厳しい努力は、いいものだ。

がんばった夏

六年　吉岡　諒亮

この夏ぼくは、大きなけいけんをした。それは、はばとびの京都の代表として目標にしていた全国大会のぶたいに立てたことです。それまで、全国一位になるために、毎朝、山本校長先生と練習をがんばってきました。
練習のほとんどは、走りこみばかりでとぶことはしませんでした。でもじょ走練習は、体力がついてきてからしました。そんな練習を毎日して、いよいよ東京に行く日がきました。ぼくは校長先生といっしょにいきました。
京都駅集合だったので京都駅までいきました。まずおせわになる先生があいさつをしました。
あいさつがおわると新幹線にのりました。のるまえに男子みんなで自己しょうかいをしました。そのじてんでもう男子全員と友達になりました。新幹線の中はとてもひまでした。新幹線からおりると国立きょうぎ場の近くまで電車でいきました。
そこからは歩いて国立にむかいました。そして国立につきました。国立のスタンドまで行きました。きょうぎ場を見たしゅんかんぼくは
「でけぇー。」
と思いました。そんなことを思っていると、ユニホームをきてしゃしんをとるらしいのでユニホームにきがえました。
写真をとりおわると次はきょうぎ場で練習をしました。とてもはしりやすかったです。ぼくは試合前だったのでそんなに練習はしませんでした。
それからホテルにいって夜食を食べて明日の試合にそなえていました。
試合の日になりました。朝食をたべて国立きょうぎ場まで電車で行きました。そのときたいちょうはとてもよかったです。
国立につくと、ベンチをさがして、かいかい式のじゅんびをしました。47都道府県の人がきていたのでかいかい式は人がたくさんいました。いよいよきょうぎがはじまりました。

ぼくはちょっときんちょうしました。いろいろなきょうぎがおわってはばとびが近づいてきたので校長先生とアップを始めました。アップが終わるとしょうしゅう所に行きました。

それから数分たつとやくいんの人がきて、ピットに行きました。2回練習をしていよいよ本番。じゅん番は後の方だったのでまつのがながかったです。

一回目足があいませんでした。でもなんとか5m21でベスト8にはいりました。そのときのじゅんいは、4位でした。

それからまた3回とべるので記録をねらおうと思いました。足は、2回あったけど記録はまったくのびませんでした。ラスト一回ぼくは、

「もう楽しくとぶぞ。」

と思ってスタートしました。自分では

「だめだ。」

と思っていました。でもやくいんの人が

「5m46。」

と言いました。ぼくは、いっきに2位に上がり、とってもうれしかったです。ぼくはそのまま2位でした。自己ベストではなかったけど全国2位になれてうれしかったです。

いっぱいおうえんにきてくれてありがとうございました。これからもがんばります。

夢は叶う

―日清食品カップ第二十四回全国小学校陸上競技交流大会応援記―

森田耕二

この夏は「ゲリラ豪雨」と呼ばれる集中豪雨が各地で猛威を振いました。東海地方に甚大な被害をもたらした大会の前夜、東京も一晩中激しい雷雨が続きました。浜野路地区の吉岡諒亮君（由良小六年）は、男子走幅跳で5m49cmの京都小学生記録を樹立後、去る八月三十日に東京・国立競技場で開催された全国大会に出場しました。ついに『夢舞台』に立つことができたのです。私も含め陸上競技を経験したことのある者には『聖地』と呼ばれる場所です。

昨年五年生の彼は、四年生までとは別人を見る程成長しました。運動能力もすばらしく、すでに4m70cmをマーク。周囲の者は「日清カップで国立を狙おう」と期待しました。記録も本人の成長とともに順調すぎる程伸び続け、六年生になると私達の「期待」は「確信」に変わりました。

予選会の前から感じていた彼のすばらしさは、すべてを計画通りに周囲の期待通りに結果を出し、着実に夢に向かって前進すること。「国立競技場のピットにたつこと」を目標に「表彰台にあがること」を夢見て、生来の素質もさることながら、努力を重ね、京都府予選を計画通りに勝ち抜き、全国大会では当然の様に表彰台にあがってしまう。それも常に笑顔を絶やさずに…まさに『夢は叶う！』です。

今回の全国大会の出場に際し、由良自治連合会様・由良地区公民館様にご後援を頂き、幼稚園様に出場を祝う横断幕を掲

げ、回覧板による周知も行いました。また、全国大会では小学校名での出場が認められておらず、所属を『由良クラブ』とすることから、由良小学校の校章を印刷した『クラブ旗とクラブ鉢巻』の作成を子供地蔵盆世話人会様にお世話になりました。白い鉢巻には、『夢は叶う』と刺繍することも忘れません。地蔵盆当日には応援メッセージのコーナーを設け、クラブ旗に『夢はかなう!』と記し、子ども達が中心となって、自由にメッセージを書いてくれました。またお母さん達も千羽鶴を折ってくださいました。今回の私の最大の任務は、その「クラブ旗と千羽鶴」を競技場に掲げること。五万人を収容するスタンドでは少し小ぶりではありましたが、由良のみんなの思いがこもった物でしたから、一番輝いていました。本人にとってもピットから見える千羽鶴は心強かったに違いありません。更に由良出身者で作る「東京由良会」の山下邦雄会長様にも応援を要請しました。大会出場を大変喜んでくださり、当日は、会長様をはじめ五名の会員様が駆けつけ、故郷から出た将来のアスリートに声援を送ってくださいました。その他、地区の皆様には様々な場面で応援、サポートしていただいたことに感謝申し上げます。

テレビ放送をご覧になったでしょうか。なかなか映らず、イライラし始めた時ようやく映りました。ピットに立つ由良クラブの鉢巻をした諒亮がカッコイイ！　最後の跳躍を終えアップになり、後ろを振り向いた瞬間、最高潮に。鉢巻の片方の端には『夢は叶う』の刺繍が…更に再度振り向き、歩き始めると鉢巻のもう一方の端には、『諒亮』の名前が…『ヤッター!!作戦通り!!』涙が溢れる程うれしいカットです。もうこれだけで大満足。さすが天下のＮＨＫ。感謝、感謝です。

さて、冒頭に書いた様に、天候は不安定ではありましたが、走幅跳の予選、決勝の時間に関しては、全く雨の影響も受けずベストコンディションでした。競技詳細ですが、予選はＡＢ二組で全選手三回の跳躍を行い、両組ベスト四を選びます。続く決勝は、八人の選手で更に三回跳躍を行い、計六回の跳躍で順位を決定します。予選開始の午後一時三十分が近づくにつれ、心臓の鼓動が高鳴ります。「プレッシャーってなに?」と軽く言ってのける諒亮よりも周りの者のほうが緊張していたに違いありません。Ｂ組の諒亮は一回目であっさり５ｍ21㎝をマーク。５ｍを跳べばベスト８は確実であることから、いきなり安心させてくれました。そして一回目終了時点でＢ組二位。予選通過を確信しました。ちなみに例年の優勝記録は５ｍ50㎝前後。期待が高ぶります。二回目はファール。三回目は、助走スピード・跳躍の高さも申し分なし。これで一気にと期待しましたが赤旗が上がりファール。結果、二組をあわせ予選四位で通過となりました。

ベスト８による決勝は、大観衆が見守るメインスタンド前のピットで行われました。予選八位の選手から順に跳躍を行います。テレビ中継に映らなかった四回目は、予選記録と同じ５ｍ21㎝。記録の更新はなりませんでした。続く五回目は４ｍ90㎝

と振るわず少しガッカリ。重い空気が漂い始めた感は否めません。そして、一年間の集大成、六回目の跳躍。テレビ放送のとおりです。私は千羽鶴を掲げ、隣の次男は手を合わせ、もう祈るしかありません。「5m46」係員の声のあとに「ヤッター！」京都府選手団からは大きな歓声が起こりました。私は千羽鶴の計り知れないパワーと必ず結果を残す諒亮の底力を感じ鳥肌が立った程です。この時点で二位に浮上。この後、残る上位三選手は記録を伸ばすことができず、諒亮の全国二位が決定したのでした。

テレビ放送での諒亮のインタビューは最高に良かったですね。「最後の六回目で記録がでました。最後はどんな気持で跳びましたか？」とのアナウンサーの質問に『最後は楽しんで跳ぼうと思いました。応援してくれたみんなにありがとうと言いたいです。」と満面の笑顔で答えてくれました。あの場面で「楽しんで…」とは、なかなか言えませんよ。やはり大物です。

この一年は彼にとって心身ともに激動の年だったことでしょう。努力の大切さ、人と人との関わりの重要性、様々な場面ですべてに感謝すること…すばらしい経験を通して人間的にも成長したに違いありません。『夢への挑戦』はまだ始まったばかりです。今後も温かく見守ってください。

ありがとうございました。

楽しかった『修学旅行』

楽しかった『修学旅行』

六年　礒本　えなみ

私が、修学旅行で一番楽しかった事は、二日目（十九日）の班別行動です。私達の班は、清水寺、京都タワー、東本願寺に行きました。その中でも、一番楽しかったのは、京都タワーでした。

清水寺を出て、バスに乗り、京都タワーに行きました。そして、タワーホテルの中に入り、展望券を買いました。買う時、私は、めっちゃ高いやんと思いました。そして、エレベーターに乗り、十階まで行き、またエレベーターに乗って十五階の展望室に行きました。エレベーターからおりて、外を見ると、すごくいい景色が広がっていました。私は、京都を上から見るとこんなんかぁ、ビルがいっぱい建っとってめっちゃ都会やなぁと思いました。そして、展望室は「ドーナツ型」になっていたので、一周まわって十四階におりました。十四階も十五階と同じようにとてもきれいな景色でした。そして、一周まわって十階までおり、エレベーターを乗りかえて、一階までおりました。そして、お土産を買いました。その後、歩いて東本願寺へ行きました。

修学旅行は、一日目も二日目もとても楽しかったです。また、こんな楽しい修学旅行に行きたいです。

修学旅行の思い出

六年　稲垣　未来

私が、修学旅行で心に残ったことは、3つあります。

一つ目は、奈良の大仏を見たことです。大仏は、思っていたよりも大きくてびっくりしまし

た。そして、大仏の周りには、たくさんの仏がありました。それから、大仏を後ろからも見ました。前から見て、見えない所も見れました。

ここでは、大仏の鼻のあなと同じ大きさの柱のあなをくぐりました。意外に、あなが小さかったので、くぐれるか心配でした。でも、くぐれたので良かったです。大仏が見れたので良かったです。

2つ目は、奈良で、しかに、しかせんべいをあげたことです。私が、しかせんべいを持っていると、すぐに、私の所に寄ってきました。そして、しかせんべいを上に上げると、しかが、礼をしました。私は、すごいなと思いました。しかに、せんべいをあげるのは、はじめてだったけど、しかが、ちゃんと食べてくれて良かったです。

3つ目は、班別行動です。最初に、清水寺に行きました。清水寺では、水を飲んだりしました。私は、長生きの水を飲みました。味は、ふつうの水でした。次に行ったのは、二条城でした。城の中には、いろんな部屋がありました。人形がすわっている部屋もありました。庭も、きれいでした。

最後は、北野天満宮に行きました。雨がふっていたので、牛をなでて、北野天満宮に向かって手をあわせることしかできませんでした。でも牛をなでれたので良かったです。

良い思い出になりました。

心に残った奈良公園

六年　牛田翔太

ぼくが心に残ったのは、奈良公園です。理由は、大仏はどんなに大きいか見てみたかったし、金剛力士像はどんな物か見てみたかったからです。

最初に、南大門に入って金剛力士像を見ました。ガイドさんの話によると、一つの木でできているのではなく、何千のパーツを組み立ててできているそうです。次に、大仏殿に入って大仏を見ました。ぼくは、もっと大きいかと思っていたけど、そんなに大きくありませんでした。大仏の頭にある「らほつ」は、人間の頭の大きさと同じぐらいと聞いて、びっくりしました。さらに、大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をくぐりました。ぼくは、くぐる前に、くぐれるかなぁと思っていたけど、くぐれたのでよかったです。次に若草山に登りました。坂道はつらくて足がだるかったです。頂上に上がったら風がつよかったけど、景色はとてもきれいでした。下山して、春日大社に行きました。でも、春日大社は、拝んで帰るだけでした。初めて奈良に行ったし、大仏も見れてよかったです。それに、初めてしかにさわったので少しうれしかったけど、しかのふんをいっぱいふんだので困りました。

思い出になった修学旅行

六年　大森　夢

私が修学旅行に行って一つの場所が心に残っています。

それは、一日目の奈良公園のことです。

私は、大仏殿にある、大仏を見た時ビックリしました。なぜかというと、写真で見ても、大きいと分かっていたけど、実物を見てみると予想以上に大きかったからです。こんな物が人間に作れるんだなぁと思いました。

それと、若草山に行った時、地面には、しかのふんだらけでした。私たちは、頂上まで行きました。やっぱり、景色がきれかったです。

私が一番楽しかったのは、しかにせんべいをあげた時です。

しかに、しかせんべいを向けて上に上げると、頭を、上、下、上、下にさげるから、かしこいなぁと思いました。それと、だ

れが教えたんだろうと思いました。そして、それを何回かした後あげました。食べた時とかがかわいかったです。

私は、ちょっとだけ、せんべいを食べてみました。そしたら、麦っぽい味がしました。あんまりおいしくありませんでした。

しかにせんべいをあげれてよかったです。

修学旅行に行って、とても楽しかったし、色々なことが体験できてよかったです。

修学旅行で心に残ったこと

六年　白矢貴大

ぼくが、修学旅行で心に残ったことは奈良公園です。特に心に残っているのは、若草山とシカにシカせんべいをあげたことです。

なぜかというと、若草山は、登るのは大変だけど、登りきった時の景色がとてもよかったからです。それにその時は台風が近づいていたから、風がよくふいていたので、とても気持ちよかったです。

次に心に残ったことは、シカです。ぼくは、シカを生で見るのもさわるのも初めてだったから、ちょっときんちょうしました。でも、先生からシカせんべいをもらってシカにせんべいをあげてみると、ちゃんと食べたのでよかっです。手の上にのせて食べさせもしました。とてもかわいかったです。でも、手の上にのせてあげつづけたら、手までかまれました。少しいたかったです。奈良公園には、いたる所にシカがいておどろきました。ガイドさんから聞いたら、白いシカもいるとも聞きました。それに白いシカの写真も見せてもらいました。とにかくシカは、とてもかわいかったです。

いろんなことを見たりさわったりして、楽しかったし、勉強になりました。

心に残った修学旅行

六年　高野守

ぼくは、修学旅行で心に残ったことが一つあります。修学旅行に行く前から楽しみにしていた新京極での買い物です。新京極で家族のおみやげを買っていきたいと思いました。男子四人で行動をして、五時から六時の一時間だったので

「時間、多いなぁ」

と言っていました。

少し歩いて、おみやげ屋を見つけて入りました。ぼくは、そこでは、買いませんでした。その後、八ツ橋を買いました。色々な味があり、ブルーベリー味かチョコバナナ味、ラムネ味が売っていました。ぼくは、チョコバナナ味とラムネ味を買いました。買う前に試食をしていておいしかったので買いました。歩いていて時計を見ると、二十分くらいたっていたので、

「時間がたつの、はやいなぁ。」

と思って、いろいろな店を見ながら歩いていると、金属に名前か日付、背番号をドリルみたいなのでかいてくれるところがあったので、やってもらいました。ぼくは、名前と日付とサッカーの背番号の十九番をかいてもらいました。こずかいも少なくなったので集合場所に行きました。しかし、まだ時間があったので、スポーツ用品を見ました。待っていたら、みんなが来て、ホテルに行きました。また行きたいなと思いました。

六年間で一番の思い出　修学旅行

六年　立井愛実

私が二日間の修学旅行で一番心に残ったことは奈良公園に行ったことです。

その中でも、大仏殿としかにせんべいをあげられたことが心に残りました。

大仏殿は、すごく大きかったので、大仏はとても大きいだろ

うなぁと思いました。さらに、大仏殿に通じる石道の石の順番にも意味があるそうです。それは、仏教が伝来した順番で中央からインド、中国、朝せん、日本の順だそうです。私は、順番にも意味があるなんてすごいなぁと感心しました。大仏殿に入ると、私たちを出迎えてくれたように大きな大仏がありました。本当にすごい迫力でおどろいていました。次に、大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をくぐりました。穴が思ったより小さくて、くぐれなかったらどうしようと心配になってきました。でも、くぐれて良かったです。その時、とてもドキドキしました。大仏殿の中にある四天王の一つも見ました。けっこう大きくて、木で出来ていました。よく見ると、おにをふんでいました。四天王は、東西南北からくる悪いものから大仏を守っているそうです。

それから、しかにせんべいをあげました。せんべいを見せると、しかはほんとに礼をしました。私は、かわいいなぁと思ったけど、追いかけてくるのがちょっとこわいなぁと思いました。だけど、いい思い出になって良かったです。

私にとって、あっという間に過ぎていった修学旅行だったけど、たくさんのいろいろな思い出ができました。出来るなら、もう一回修学旅行に行きたいです。

忘れらない修学旅行

六年　枡岡佑奈

私が修学旅行で心に残ったことは、大仏殿で奈良の大仏を見れたことと、若草山に登ったことです。

まず、大仏殿では、想像をはるかにこえた大仏のサイズにおどろきました。これを二百万人が10年で作り上げたと思うと昔の人の知恵は、機械のようにすぐれていたんだなぁと思いました。目のさっかくで小さく見える大仏の目でさえ、一メートル二十センチもあると聞いて、びっくりしました。

そして、大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をくぐりました。くぐる前はくぐれるか心配だったけど、かたが入ったらあとはくぐれました。大仏の裏にある四天王の一つを見ました。その四天王は、悪者から大仏を持っていると聞いて、どれだけ大仏を大切にしているかが伝わってきました。

大仏殿を見学して、私はおどろきと不思議でいっぱいの大仏を見ることができたなぁと思いました。

そして、若草山に登りました。私は初め、すぐに登れるだろうと軽い気持で登りはじめたけど、だんだん上に行くにつれて坂も急になってきてつかれてしまいました。私は若草山をあまく見ていたなぁと思いました。でも頂上に着くと、そのつかれを忘れさせてくれる絶景を見ることができました。風もここち良くて気持ち良かったです。

頂上からおりてくると、しかにしかせんべいをあげました。はじめはあげるのに少しとまどったけど、慣れるとしかもちゃんとおじぎをして食べてくれました。

この修学旅行を通して、たくさんの事が学べました。この6年間の中で最高の思い出を作ることができて良かったです。

思い出になった修学旅行

六年　吉岡諒亮

ぼくが、一番心に残ったことは、大仏でんです。大仏でんは、木造の建物でとても古かったです。大仏でんは予想いじょうに大きくてびっくりしました。中に入ると大仏があって、大仏もとても大きかったです。大仏でんには、四天王がいました。四

天王の特ちょうは、下に鬼をふんでいることでした。ぼくは、「そーなんだ。」と思いました。四天王の二人は体がついていたけど、あと二人は未完成で顔だけが展示されていました。その横には、大仏の鼻のあなの大きさと同じ大きさのあなをくぐる所がありました。そのあなを通ると頭がよくなるらしいので、ガイドさんが、

「みんな通りましょう。」

と言いました。でもあなは、いがいと小さかったので

「通れるかなぁ。」

と心配しましたが、あんがいかんたんに通れました。

二番目に心に残ったことは、京都タワーです。京都タワーは班別行動で行きました。近くで京都タワーを見たら大きくて、「京都タワーってこんなに大きいだぁ。」と思いました。京都の町が見えてとてもきれいでした。そう眼鏡で清水寺をみたら、清水のぶたいには、人がたくさんいました。東寺の五重のとうも見えました。

下に降りたら、京都タワーのキャラクター「たわわちゃん」とみんなで写真をとりました。みやげもたくさん買いました。

みんなで楽しく見学できて、よい思い出になりました。

富士山麓を歩く（No. 1）

四方　俊一

「山は富士・花は櫻」と幼い時以来、絵本で、書物で、映像で頭の中に印象付けられ国民の誰もが憧れ信仰した山である。外国人でさえ日本といえば「富士山」「櫻」は定番である。その「富士」はその昔「不二」と書いたという、つまり「二つと無い」という意味である、他にも「不尽山」・「不自山」・「布士山」・「布自山」・「福慈やま」・「富士嶺」・「富岻嶺」・「富慈峰」・「富士峰」・「富士高嶺」などとも書き、古くは富士山と書いても「ふじのやま」と読ませた。富士山は静岡・山梨両県にまたがってそびえる秀麗な円錐型成層火山。頂上、剣ケ峰の標高三千七百七十五・六米は日本の最高点である。構造上からは小御岳・古富士・新富士の三つの火山から成り立ち、古来より何回も噴火を繰り返し最後は宝永四年（一七〇七）の噴火後、活動休止期に入っている。北麓の山梨県側には、山中・河口・本栖・西・精進の富士五湖が有り、西麓静岡県側にも田貫湖がある。これらは噴火に起因した一種のせき止め湖である。又、山麓には富士吉田・猪之頭・白糸の滝・富士宮・三島市内・柿田川など豊富な水量を誇る湧水地点が数多く有り上水・工業用水・農業用水・養鱒など多方面に利用されている。平安時代以降山岳信仰の発達に伴い、登山者も増加し、江戸時代には「富士講」が普及した。整った山容の美しさから万葉集・竹取物語などの多くの文学にみえ、歌では、噴火の火が「思ひ」の「ひ」

に掛けて詠まれた。羽衣・巨人伝説などでも種々伝えられている。有名な万葉集に「田児の浦ゆうち出て見れば真白にぞ不二の高嶺に雪は降りける」（山部赤人）と詠われた。このように「富士山」は万人の心を引きつけて離さない。その「富士山」を見たのは十七歳の時、修学旅行で東京に行った時、車窓から見た「富士」は壮大というか荘厳というか言葉にならず見とれていたのを想い出す。恐らく初めてみる「富士山」に誰もが荘厳さに心を奪われるものと信じる。さてさて静岡県富士宮市観光協会ツーデーマーチ協会から案内を受けて参加した。時は、一九九四年（平成六年）十一月五日・六日の二日間であった。気候的には日本海側が裏西の気候になると表日本は天候が良くなり快晴の日が続き、空気が澄んでいるので富士山もはっきりと遠くからでも見え雲のかかるのが少なくなってくる。周辺何処からでも見ることが出来、一年を通じて一番良いときである。コースは四十キロ・二十キロ・十キロの三コースで自分に適したコースを選ぶ。私は四十キロを二日間選んだ。身仕度を調えて出発は早朝の七時である。出発点は「富士宮市白糸の滝」白糸の滝には滝と富士が同時に眺められる展望台があり周辺には土産物店・食堂が軒の並べているが時間が早朝故、閉店したままである。十月・十一月の頃は富士に新雪が積もり色彩的にも眺望の良い時期である。白糸の滝のすぐ南に「狩宿」という地区がある、「狩宿」というのは、昔、「富士の巻狩り」（四方から遠巻きにして行う狩り）の際、この地区の井手家に頼朝が本陣を置いたことから名付けられた地名で、頼朝が馬を繋いだと云われる駒止めの桜も特別天然記念物として残されている。富士宮市のほぼ中央に全国の浅間神社の総本宮、富士山本宮浅間大社（祭神・木花開耶姫命）がある。もともとは富士の噴火を鎮めるために祭られたもので、浅間造りの社殿は大同元年（八〇六）に造営された。現在の社殿は慶長九年（一六〇四）、徳川家康の造営になるものである。境内には富士の湧水を集めた湧玉池がある。そこには五〇センチ以上の大きな虹鱒が悠然と泳いでいた。この境内から富士の眺めは木々が多く余り良くない。なお、富士の八合目以上は全てこの浅間神社の所有地であり山頂には奥宮が祭られている。市街地から見る富士の頂は、剣ヶ峰を中心にした調和を保っている。室町時代から江戸時代にかけて描かれた富士の絵画の山頂の形はほとんどが三峰形であるのは恐らく浅間大社のある富士宮から眺めた富士をモデルにしたものと考えられる。戦前の教育を受けた人には富士の山麓で展開された有名な話で「曽我兄弟敵討ち物語」を知らぬ人は無いと思う。工藤祐経一族と曽我十郎・五郎兄弟による同族同士の間の争い事におきた「敵討ち」であって、頼朝が一族郎党を引き連れて行った富士の裾野に於ける巻狩りにおいて仇討ちを行ったものである。だから「白糸の滝」の側に仇討ちされた「工藤祐経」の墓地がある。戦前、読んだ小説の物語を参考にして「巻狩り」の実際を描くと『わぁっと鬨の声があがると、草むらの方々から鳥が飛び立つ。兎が飛び出し、鹿は角をたてて飛び出した。裾野を埋め尽くした勢子は、竹棒で草むらを叩きながら陣形を縮めた。追い詰められた獲物は一方に固まって走り始める。と、前方に待ち構えていた射手が一斉に矢を放つ。のけぞる鹿、地を這う狐、暴れ回る猪、…わあっと云うどよめきは五月の空を圧しつくした。建久四年（一一九三）のことである。富士の巻狩りは今や真っ最

中であった。頼朝は今朝、井手の館を発して、的ヶ原の小高い丘に馬上豊に立っている。かれはすこぶる満足であった。平家を完全に壊滅させた現在、こうして諸国の武将を集めた絵巻は見事なものであった。自分に伴をしてきた者三万四千八百騎、諸国から参じた者六万四千六百騎といわれる。この時、頼朝の目に嫡子頼家の姿が目に写った。「万寿の君」と呼ばれてまだ十三歳の身だが、目前に出た獲物を追って馬を駆けさせていた。傍らで愛甲三郎がしきりに教授しながら鹿を追い込めている「ハアッ」馬を叱咤する声が一段とひびく。猛然と追い詰めた頼家の手が伸びて矢をつがえる。馬上から厳しい目が光る。キリキリと引き絞られた弓が、次の瞬間激しい音をたてて宙を走った。馬が走り過ぎる。草を蹴散らし、砂埃が舞い上がる。その後に、白い毛を撒き散らして、鹿が一頭横転していた。矢は見事に喉を貫いている。思わず頼朝は立った。お伴の者もそれを見た。賞賛の声が一時にあがると、裾野を埋めた人々は躍り上がって拍手していた。その翌日（五月二八日）雨のため酒宴。雨は一日中降り続き深夜迄続いた、木戸の警備も薄く、誰も彼もが昼の酒宴で疲れはてているらしかった。その闇をぬって工藤祐経の寝所まで難なく近づいた曽我兄弟は、そっと仮屋に入った。目指す敵は、全くの不覚に寝入っている。「よいか五郎、ぬかるでないぞ!!」「おうっ、兄さん」二人の目が緊張した。タタッと座敷に入り込んだ十郎が枕元に立つと、五郎も抜刀して裾に回る。十郎はその勢いで枕をしたたかに蹴飛ばした。寝ていた者を斬るのは死者を鞭打つに等しい。「ヤイ!!祐経、ようく見い、我ら兄弟は河津三郎祐泰の忘れがたみ、曽我十郎と弟五郎時致なるぞ。今こそ父の恨みをはらさん」と名乗りを上げれば、ガバッと跳ね起きた祐経が「心得たり」と傍らの太刀に手を掛けた。途端に十郎の刀が打ち下ろされ、ズブッと鈍い音がした。つづいて五郎が右肩深く切り込んだ……』富士の裾野の巻狩りは曽我兄弟の仇討ちが後々まで伝えられそれに関わる遺跡も多く残されている。話は、仇討ちが起きる十七年前のこと、曾我兄弟の父河津三郎祐経は所領争いに巻き込まれて暗殺された。張本人は工藤祐経であったのだが、それは曾我兄弟の祖父にあたる河津二郎祐親が工藤祐経の所領を横領したことに始まっている。この時兄は五歳で一万と云い、弟は三歳で箱王と云った。母はその後相模の曽我太郎のもとに再婚したので兄弟も「曽我」を名乗る様になった。……話は以上として現在に戻そう。歩くコースは国道一三九号線から県道白糸・富士宮線に入る、「富士の山」は白雪を被り荘厳と云うか壮麗な全姿を出していた。富士山が見られると云う事でこのツーデーマーチには全国から集まり四〇キロのコースは七百人参加した、二〇キロコースは千参百人、十キロコースは千八百人が参加して歩くと云う。そしてコースは富士川の支流、大倉川に下りて行く、花鳥山脉の麓を流れる大倉川に沿って北上する。チェックポイントは静岡県立虹鱒養殖場があり、ハイキングコースもある、小さな神社前の広場で観光協会の「虹鱒の塩焼き」を御馳走になる、何か新鮮な味がする。次のポイントに向かう。「半野」富士山西麓丘陵末端部にあって芝川と大倉川に挟まれ、東部は天子ヵ岳連峰の東麓山地に立地する。ここから道路は山中に入り視野に入っていた富士山とも暫くの別れである。杉・桧が鬱蒼と繁り良い材木を産する所と見えた。天正二年（一五七四）甲斐甲府藩の武田勝頼は江尻城（清水市）と

興国寺城（沼津市）の築城に際し材木と普請役を命じているのも頷ける。足を進めると県営キャンプ場に出た、そばに湿地があり湿原植物を保護するため木製のプラットホームが設置してありその上を歩く、やがて「田貫湖」に出た。パッと目の前が明るくなった様な感じで正面に富士の山があり、湖面には「逆さ富士」が写り鴨が無数にいた。湖面に写る「富士山」は本当に見事、それは素晴らしい景観であった。その田貫湖を半周して国道百三九号線に出る。そこは静岡県立畜産試験場で山麓を利用した広大な牧場である。北へ行けば「朝霧高原」・ボーイスカウトジャンボリー会場・静岡県水産試験場養鱒場・国立音楽大学セミナーハウス等がある。「朝霧高原」富士山の西麓、麓・根原等を含む一帯に広がる標高七百米～九百米の高原。夏場は南からの暖かい湿った空気が高原で冷やされ、霧が発生しやすい。戦前、ノモンハンでソ連軍に手痛い損害を受けた日本軍が設けた日本帝国陸軍演習場であった。第二次世界大戦中には陸軍の演習場として最大限に利用され軍人一色となった。戦後、軍用地が開拓地として個人に売却され、昭和二十年（一九四五）から西富士開拓が開始され、同二一年に長野県阿南町から第一回の開拓団三百戸が西富士へ入植した。その後、高原集約酪農地域の指定を受け、酪農経営に取組み、牧草地も千ヘクタールに広がって国内でも有数の酪農地帯となった。（次号に続く）

征（ゆ）きて、鉄道（てつどう）を建設（けんせつ）して、それから―

濱野路　大森　孝

（一）夕食のレストランより

家内と遙々（はるばる）、憧れていた、この赤道直下のシンガポールへ、漸くやってきて、ネムの樹が太く逞しく育っていたり、又旧藩主の所領だった植物園では、わが国の元総理の中曽根康弘氏の手植えの楠木（くすのき）が殆ど成長していない事など、あらためてびっくりすることが相ついだ。流石に緯度0度の土地は凄いなあと感嘆することしきりだった。

平成12年の11月13日、夕食を港のそばの4階で。それもあたりはすっかり闇（やみ）につつまれて、騒音がそこそこにたちこめる中を、外の燈火の耀きに見とれている。港は細長い運河みたい。

その間に、ゆくりなくも、私の叔父であるK・U氏が味わった処刑（戦争犯罪容疑者として…）へのとめどもない恐怖と、おさめようのない強度のストレスはまさしく想像を絶する。耐えようがなかっただろう。誰しもがそんな死への恐怖に直面したら、ストレスは暴発して、身も世もない悲嘆に昼も夜もないだろう。

ところが叔父K・U氏は、一歩譲って“軍属”の身分であり、地元宮津保線区から派遣（従軍）された　クワイ川に架ける鉄道技術者としてのそれが、B級C級の敵側の捕虜虐待の残虐行為から免責されたと、昭和21年、佐世保港へ引き揚げてきた時、敗戦後恐ろ恐る、語ってくれた。このシンガポールにあったチャンギー刑務所では、俘虜

への残虐行為を―暴行、虐殺を行った罪で、若い日本軍兵士が数多、絶体絶命の状況のもとで絞首して処刑されている。中には冤罪の兵士もあっただろう。十分に被告たちへの弁護もなされなかったかもしれない。

※（後程、堀内豊秋海軍大佐のインドネシアに於けるメナドでのオランダ軍法廷で裁判をうけて銃殺刑で処刑された。このことについてのべたいと思います。）

ことほど、さように、まだ若輩で未熟なクワイ川鉄橋を建設工事で現場監督をしていた、下級兵士こそは受難の極み。戦闘という狂気と一種の恐怖への錯乱状態下の建設作業、その兵士たちの軍務というのが俘虜を使役するということだったのであった。逃れられぬ運命というべきか。

ここで叔父K・U氏の国鉄職員としての従軍はクワイ河に架ける鉄橋であり、その上を輸送する鉄道の建設であった。陸軍軍属として若い兵士たちと一緒に行動を偕にしていたわけであった。

それやこれやと思いめぐらしていると、又別の想いがゆくりなくも頭に浮かんできた。それはこの目の下の堀のような、入江のような港の一部を見ていると、まるで走馬燈のように、その昔アンダマン諸島やニコバル諸島を守備していた、海軍兵学校出身の某氏を指揮官とする陸戦隊であった。そこで2つの諸島を救援し、警戒していた二隻の重巡『羽黒』と『足柄』に駆逐艦『神風』を加えて、自由に行動可能。『高雄』と『妙高』の重巡二隻は修理中。故にセレター港（このシンガポール）こそは、昭和18年頃、それ以後、基地として、戦略物資（ボーキサイトに石油等）を日本内地へ輸送したりする船団を護衛したり、その前には航空機を輸送する空母を護衛する等、戦域の"要石"として重要な役割を果たしてきた港であった。作戦行動の要としての国外の砦であった。

（二）叔父の出征

叔父K・U氏は、戦争世代の一人として、従軍して軍属としてつぶさに辛酸を嘗めてきた苛烈な人生であったが、先頃平成17年3月27日、享年87才で他界した。怖い目にあって、うちひしがれて、九死に一生を拾ったような人生であったが、タイからの生還を果たし、恵まれた方であったかもしれない。

かえりみて、私が中学2年生の時、叔父は私と同じ通学列車で、たまたま偶々乗り合わせたものの、―07・40分頃の上り西舞鶴行―私はタイで鉄道を建設するという風にきいていたので、戦闘部隊でなく、殺りく行為には与しないと思っていた。先頭車両で隣の僚友らしい男と談笑していて、それ程切迫感はなかった。叔父は通路側の席で私を見ていた。私の方も出札口を出て、直ぐに舞鶴一中迄隊列を組んで行かねばならず、最後尾の妹に知らせに行く間も、もどかしく、あたふたするばかりであった。

高架を渡って、叔父は上り京都行きの2番ホームに見えた。あつけない見送りが果てしない出征の始まりであることは知るよしもなかった。

敗戦の翌年、佐世保港へ引き揚げてきて、叔父は出郷の際と同じで、西舞鶴駅の高架の階段下で、はからずも舞鶴第一高女より帰宅途中の妹と出逢ったらしい。宮津市へ戻るには、決まって国鉄西舞鶴駅が関所であったのである。

収容所での話は、叔父は滅多に語ることはなかったが、敗戦後47年を経た平成4年に宮津市内のO病院の待合室で、その頃まだ元気だった叔父がはずみで、チャンギー刑務所でのはらはらする深刻な体験を吐露して

くれた。チャンギー刑務所の状況があれこれ思いやられた。熱帯の国での収容所の起き伏しが、これ又辛いものであったに違いない。ともあれ、家庭を持ち妻子4人を内地に残して、戦犯の罪をクワイ川の鉄道と架橋工作の俘虜残虐の故を以て、告発され明日をも知れぬ境遇に避け得られぬものとして呻吟せねばならぬとは言葉もない。イメージすることさえ恐ろしいことである。

(三) 私の上官の悲劇

私が海軍兵学校303分隊に在った、昭和20年に、針尾海軍兵学校から防府海軍兵学校に移っても、一部部監事として、そうして全校生徒に毎朝指揮台よりデンマーク体操を音と朗々と教えてくれた堀口豊秋中佐（防府校では大佐に昇進）があった。長く伸ばしたあごひげをしごきながら『膝屈伸』『誘導振』『体前倒』『体側屈』等々、次々とくり出す号令に、懸命に追躡したものであった。

彼は知る人ぞ知る。インドネシアのメナドに“神兵天降る”とマスメディアに書きたてられて、1942年1月、喧々ごうごうもてはやされた。大佐は敗戦後1947年1月、BC級戦犯として告発され、オランダ軍戦犯として罪を銃殺処刑で責を負った。

その後1953年4月に冤罪となって、戦犯が解除されたものの、死んだあとであった。

『ことほどさように、軍事法廷での処刑は、果たして充分な弁護がつくされて、公正な判決がなされたのかどうか、気になるところです』（斉藤一好氏に依る文章P.239より抜粋する。）

※参考文献　斉藤一好著
書名『一海軍士官の太平洋戦争』
書籍の発行所　高文研
▽シンガポール　セレター軍港
『二度にわたるシンガポールへの護衛』－P.148　P.150～P.151
▽堀内豊秋大佐とメナドのオランダ軍事裁判－P.45～P.46
P.238

※参考文献
書名『艦長たちの太平洋戦争』
著者　佐藤和正
発行所　光人社
（参考）駆逐艦『神風』艦長・春日均
中佐の証言より－P.185より
P.191
○重巡羽黒沈没S.20;5;16
○重巡足柄沈没S.20;6;8
○『神風』は敗戦迄残った。
▽ペナン沖海戦の悔恨－P.186
引用

（平成20年7月4日記）

付記；叔父の話によると、クワイ川にかける鉄橋、鉄路の建設工事の俘虜の作業監督には、若い朝鮮半島出身の日本兵が数多くあたっていたと言う。チャンギーの刑務所にも、収容されて恐怖と絶望におののいておられたと言う。

広めよう　やさしい心と　助け合い
小学校4年

あなたから　手をさしのべる　思いやり
中学校3年

（平成19年度人権標語優秀作品から）

カボチャと鬼

みもり　あきら

むかし、大江山に、あわてものの鬼がおりました。

ある夜、人里へおりてきて、農家の前までくると家の中から、子供の泣き声が聞こえます。

鬼が中をのぞくと「あまり泣いていると、こわい鬼が出てくるぞ」おじいさんが云っても「鬼なんかこわくないもーん」子供は泣きやみません。

「あん？鬼なんか、こわくない、つよい子だ」鬼が感心していると、「ほな、このカボチャは、どうや」おばあさんが、カボチャのタネを煎った、おかしを出しました。

子供はおかしを食べはじめると、ぴたりと泣きやんだのです。鬼は、カボチャに見つかっては大変だと、裏の馬小屋にかくれました。馬小屋の天井には馬どろぼうがひそんでおり、入ってきた鬼を馬だと感ちがいして、手をのばします。

いきなり、首をつかまれた鬼が、びっくりして身ぶるいすると、どろぼうは、足をふみはずして天井の、はりから落ちてしまいました。

「カボチャに見つかった!!」鬼は、あわてて外へ逃げました。

どろぼうは、このえもの、にがしてなるものかと、首にしがみついていましたが、月明かりで見ると、馬だとおもっていたのはおそろしい鬼です。

やがて、前方に松の木が見えてきました。「あれで逃げられる」どろぼうが松の枝に、とびつくと、枝はポキリと折れて根元にあった穴の中に、ころげ落ちたのです。

鬼は首にしがみついていたどろぼうがいなくなって「ふう助かった」へたへたと、すわり込んでしまいました。

穴の中のどろぼうは、手を見て、助けの手だとおもい、必死で手につかまりました。どろぼうの力のつよさにサルは「鬼さん！助けてくれーっ」ひめいをあげて穴の中に落ちたのです。「おーいサルさん」鬼がよびかけても、穴の中ではサルと、どろぼうが、目をまわしています。「カボチャにやられた…カボチャゆうのんは、なんと、こわいもんや」鬼は大江山まであわてて、逃げてゆきました。

そこへ通りかかったサルが「どうしたんや青い顔して」声をかけました。「どうもこうもカボチャゆうのはこわいもんや」わけを話すとサルは大笑いして、「それはどろぼうや、その穴の中におるで」穴の中をのぞきます。「あぶないぞサルさん」「だいじょうぶや、いま出して見せたるわ」サルは穴の中へ、手を入れたのです。

参考文献「京都府の民話」カボチャにやられたおに〈再話韓庸〉偕成社

環境共生を学ぶ 地域の皆さんが先生

京都府立大学　三橋　俊雄

今年も、由良地区の方々に支えられて、本学学生が地域で出会い、学び、感動する、「地域の光をデザインする」「環境共生を学ぶ」学外演習を、二月、八月、九月に実施することができました。新旧公民館館長、新旧地区連合会会長をはじめとして、由良のお母さん方、お父さん方などにお世話になり、特に二月と九月の由良演習では、山田昭さんが中心となって、さまざまなものづくりにご協力いただきました。以下、三つの演習と、加えて、平成二十年度より開始された「由良の里自然公園（エコパーク）づくり」について、報告をさせていただきます。

環境共生教育演習（二月）報告

二月十五日～十七日まで、平成十九年度より開始された全学共通教養教育科目「環境共生教育演習」として、人間環境学部、農学部、文学部の計四十九名の学生の参加のもと、エコ建築（由良岳登山口案内小屋）、ワラ細工（鍋つかみ）、こんにゃく、竹ホウキづくりを体験しました。以下、参加した学生の感想文を紹介します。

「この演習において意義深いところは、地域に根付く伝統的な生活の技といったものをその土地で暮らし長年培ってきた方々から直接学び、受け継ぐ機会があることです。一方で地元の皆さんも次の世代へと伝える機会に恵まれることであり、これも大きな意義があります。都市部においては核家族化が進み、電子機器に頼る生活へと変

化が速まり、身近なところでこのような生活の技を知ることができない、現地においては過疎が厳しく技能を引き継ぐ人が減っている、という現実がこの取組の価値を高めているということにも思い当たり、今、日本中で数値に表せない貴重なもの、文化的資産と呼べるようなものが失われていることに悲しさと焦りを感じました。一日目の竹ほうき作りでは、雨が雪に変わり吹きつける中で地元のお父さん方が枝打ちを教えてくれました。竹の節から細く生える枝は『切る』というより『裂く』のだと、縦方向ならば強い衝撃を与えると簡単に落とせるところを見せてもらい、ペンチの正しい使い方も初めて教わり、発見の連続でした。『どのような些細なものも魂を込めて作らないといけない』という話も印象的でした。二日目のこんにゃく作りはお母さん方三人に教わりました。はじめは知らない若い子がわっと押し寄せて緊張されている様子でしたが、作業の合間に会話を交わし、日々の生活や家族のことなどを語るうちに和やかな雰囲気の中、こんにゃくを完成させることができました。いつもとは違う不出来なこんにゃくに、お母さん方は笑いながら、最後の別れ際には涙ぐんで惜しんでくださいました。想像以上の天候に見舞われた三日間でしたが、得るものは大きかったと感じています。」

また、朝日新聞記事「由良岳に登山案内小屋、府立大生、住民と手作り」の一部を紹介します。

「宮津市由良の由良岳の登山道入口に府立大学の学生と地域住民が十六日、協力して案内小屋を建てた。登山ルートや山林の植生などを小屋内の掲示で紹介し、杖もおいて帰りには一休みしてほしいと、間伐材などを活用し、学生十九人と地元で大工の心得などがある住民七人が、午前九時から午後五時までかけて建てた。穴を掘って電柱の廃材を切った柱を四本立て、杉やヒノキの間伐材を学生が皮をはいで板に仕上げ、環境に優しいエコを心がけた。」

「由良の里自然公園（エコパーク）づくり」について

丹後由良駅裏の約一ヘクタールの農地（深田、アシの湿地等）を、「由良の里自然公園（エコパーク）」として整備する計画がスタートしました。

●この公園は「由良のみなさんが楽しみ、学び、集うことのできる地域の拠点」「住民の散策の場」「周辺地域の小中学生から大人までが訪れて楽しめる自然共生の学習の場」をめざします。この公園は、由良のみなさんが主体となって行う「由良の誇りづくり・元気づくり」活動のひとつです。

●京都府立大学、宮津高校が協力します。

●原則として、現地の深田、アシの湿地等の環境には大きな変更を加えず、現状を活かして自然豊かな公園づくりをしていきます。

●環境づくりのイメージとして、平家ホタル、ザリガニ、メダカフナ、ドジョウ、ゲンゴロウなどの観察池、スイレンや水生植物の池、葦の間を船遊びできる池、学習用稲作田、国民宿舎・由良が岳登山口に通じる道路横を彩る花畑、ぐるっと回れるエコパーク周遊小道、地元固有の野草の花咲く畑、などを考えています。

●建造物のイメージとしては、観察用ウッドデッキやベンチ、観察用の水辺の浮き橋、夏の日差しを遮る藤棚、土壁でできたエコパーク案内板・自然観察学習パネル・由良の歴史学習パネルを検討しています。

●イベントのイメージとしては、田んぼの学校、生態系観察湿地で遊ぼう、田舟レース、ど

ろんこ遊び、エコフィッシュ（ワラの中に籾殻燻炭や竹炭を入れたワラの魚）による川や水路の浄化実験、公園内でのピクニック、竹細工・ワラ細工づくり、野外で山椒大夫を語る会、池さらいと魚つかみ、ホタルと星空の観察会、など、たくさんの夢を実現していきたいと考えています。

由良演習（八月）報告

八月二十七日～三十日まで、環境デザイン学科三回生を中心に、教員五名と学生十六名で、「由良の里自然公園（エコパーク）づくり」に汗をかきました。作業は、（一班）公園ぐるっと散策道の整備と植物調査。（二班）公園内の池の植物（水生植物、水生昆虫）調査。（三班）公園内の池の田舟遊び検討、を行いました。

公園東側、北側の小道を、地元の方が草刈り機で太枝やアシの整備や水路脇の草刈りを、学生が太枝切鋏やノコギリなどを使って竹や蔓を切り、里道の整備と道標の設置を行いました。

二十八日の午後には、由良小学生八名が参加して、「田舟遊び」「どろんこ遊び」を楽しみました。子どもたちの笑顔に、「すべての人が、児童が、学生が、地域の方々が生き生きとしています。これぞ生きている、楽しんでいると感じます。人間として、人とのつながり、自然とのつながり、自然への感謝、恩恵を確かめるのには、遊びがなければだめだと思っています。」との由良小学校長からの手紙をいただきました。

また、二十九日の発表会には、井上宮津市長や二十一名の地元の方に参加いただき、「散策道を公民館『歩こう会』のコースにしたい。」「四十年前に歩いた道の記憶がよみがえった」「（カラスガイを）タナゴがおったと初めて知った」「地域との関わりを宿題として突きつけられた感じ。」「私ら（四十代）に声かけしてほしい」などの意見をいただいた。

由良演習（九月）報告

九月十四日～十五日まで、府大教員一名、三回生二名、宮津高校教諭二名、高校生十三名が参加して、由良の里自然公園内の池の生物や野鳥の観察用「ウッドデッキ（浮き橋）」の制作を行いました。三十年ものの長さ八メートルの杉材を七本、枕に使う太い二メートルの杉材を八本、皮をむき人力で三十分もの道のりを公園の池まで運び、ユンボの力を借りて皆で池の中に引き入れ組み立てる、二日がかりの力仕事でようやく立派なウッドデッキが完成しました。

由良の皆さん、今年も私たちの「先生」になっていただき、本当にありがとうございました

（1）由良岳登山口案内小屋建設（2月）

（2）ワラ細工・鍋つかみづくり（2月）

（4）小学生との「田舟遊び」（8月）

（3）公園内散策道の整備（8月）

（5）「田舟遊び」「どろんこ遊び」後の小学生たちとの記念撮影（8月）

（6）山田さんや宮津高校生たちと出来上がったウッドデッキの上で記念撮影（9月）

「由良岳山の案内所」完成

主事　磯田充亮

公募していました由良岳登山口（国民宿舎上）の小屋が完成し「由良岳山の案内所」としてスタートしました。

丹後天橋立大江山国定公園の指定を受け、由良岳も国定公園の仲間入りとなります。

案内所は、年間の登山者数や登山者の意見や感想等を知る上で重要であり、また登山者の休憩所として活用したいと考えています。

昨年夏、京都府立大三橋教授に相談し「由良岳の山林の植生等も紹介しよう」と快く受けていただき、今年二月山田昭さんから資材の提供を受け、府立大学の学生と地元の有志の皆様にご協力をいただき棟上げをしました。

その後「由良岳山の案内所」と記された看板を取り付け完成しました。

案内所には、登山証明書とアンケート箱、由良散策のしおり、登山工程表などが置いてありますが、登山証明書は十月一日現在364枚（四月二十九日第42回由良岳登山を含む）が発行済です。

一、綾部市の71歳の男性から

由良岳の見晴らしがすばらしいので天気の良い日に登っています。東峰の手前のささが大変多く一度刈り取ってほしいです。

二、大阪60代の女性から

低山なのに“山登りした”と充実感の味わえるいい山でした、かわいいお花もいっぱい咲いていて楽しませてもらいました。頂上に近づくころからガスが上ってきて展望はもうひとつでしたが、涼風に恵まれ気持ちよかったです。ただ、頂上付近の笹がおいしげっていて、草も道にのびていて歩きにくいところが何ヶ所かありました。お手入れ大変だと思いますがよろしくお願い致します。等が寄せられました。

由良岳は国定公園となり今後更に登山者の増加が予想されますが、京都府では本年度予算で登山道整備計画（山頂東、西峰）が進められていますが、豊かな自然環境を守りながら登山道が整備されるよう願っています。

最後に案内所設置にあたり、ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

編集後記

2008（H20）十一月

紅葉が美しくなってきました。この地球は気候がおかしなってきている。

温暖化に歯止めがきかないのだろうか。原油高は少し落ち着いてきたが、アフリカや貧しい国々に深刻な影響を与えている。

先に出された報告によると、世界の平均気温は大きく上昇し中でも北極はほぼ2倍であり21世紀後半に夏の海氷はほぼ消滅するそうだ。二酸化炭素の増加が原因とされているが、私たちはどう対処すれば良いのでしょうか。まず身近なところから、買い物でレジ袋を使わない、冷暖房の調節などと言われています。自分たちが住んでいる時代が良ければよい問題ではない。この美しい地球を後生にまで残してゆきたい。（枝川）